

松村謙三先生を伝えよう

松村謙三先生没後44年記念事業

特別企画展示会 関係資料 その1/2 重光 葵 往復書簡まで



記念講演会 平成27年8月 21 日(金)

記念企画展示会 平成27年8月 21 日(金)~28日(金)

主催/松村謙三顕彰会 南砺市日中友好協会 後援/南砺市

●開催主旨

松村謙三先生は、戦後の農地改革に大きな足跡を残され、さらに日中国交回復以前の基盤づくりにも尽力されたことがよく知られています。

政党政治家としての無私の信念と清廉潔白な政治姿勢は多くの信奉者を集め、政治家を志す人の理想像として伝えられてきました。

没後 44 年にあたる命日に、松村謙三先生の大いなる業績を再認識するため、記念講演会と記念企画展示会を開催します。

●開催概要

(1) 記念講演会

日時 平成 27 年 8 月 21 日(金) 午後 2 時～4 時頃

場所 南砺市福光 5260 福光福祉会館 3 階ホール

主催 松村謙三顕彰会 南砺市日中友好協会

後援 南砺市

内容

○基調講演

「松村謙三と日本のあゆみ」

講師：武田知己氏（大東文化大学法学部教授）

(2) 記念企画展示「松村謙三先生を伝えよう」

日時 平成 27 年 8 月 21 日(金)～8 月 28 日(金)午後 4 時まで

場所 福光福祉会館 1 階ロビー

●記念講演会関係資料

基調講演

「松村謙三と日本のあゆみ」

講師：武田知己氏（大東文化大学法学部教授）

■武田知己氏のプロフィール



・専門分野

政治学、日本政治外交、日本史

・学歴

1994年 3月 上智大学文学部卒業

1998年 9月 東京都立大学大学院（現首都大学東京）
社会科学研究科博士後期課程中途退学

2000年 2月 東京都立大学 博士（政治学）

・職歴

1998年 10月 東京都立大学法学部政治学科 研究助手

2001年 4月 日本学術振興会特別研究員（政策研究大学院大学受入）

2004年 4月 大東文化大学法学部政治学科講師

2007年 4月 大東文化大学法学部政治学科准教授

2012年 4月 大東文化大学法学部政治学科教授

・著書論文等

単著 『重光葵と戦後政治』（吉川弘文館、2002年）

共著 『歴代首相物語』（新書館、2003年）

共編 『重光葵 最高戦争指導会議記録・手記』（中央公論新社、2004年）

監修 『重光葵 外交意見書集』全三巻（現代史料出版、2007-2010年）

共編 『日本政党史』（吉川弘文館、2011年）

■基調講演資料

松村謙三と日本のあゆみ

2015年8月21日

於富山県南砺市

武田 知己 (たけだ ともき)

大東文化大学法学部

ttakeda@ic.daito.ac.jp

■はじめに：戦後 70 年を迎えた日本

- 全く遠くなった「近代」・「戦前」・「戦時」
- 意外と遠くなった「戦後」
- 意外と近い「戦国」・「近世」

■松村謙三の政治活動：三つの柱（木村時夫）

1883（明治 16）年生まれ：近代日本の発展期に物心がつく

- 議会制民主主義の確立・発展：初期議会の記憶－政党内閣期の混乱期から戦争を挟んだ復活期までの中央政界で活躍
 - 農業問題への合理的解決：富山の風土と卒業論文－町田農相の秘書官－桜内農相の政務次官－幣原内閣の農相
 - 日本とアジアの国家的・市民的提携：戦前は度々の渡支（教師としての派遣は断念）－戦後も五度の訪中－日中友好の井戸掘り人
- 1971（昭和 46）年 8 月：田中角栄内閣成立直前に逝去

■松村謙三の資質：近代日本の失われた可能性・政治家のモデルの具現者

- 高潔さ：人格形成期における家族・教師の影響
- 観察眼の鋭さ（筆致の暖かさ）：画家を進められた少年期。新聞記者時代の習性（『三代回顧録』における張作霖爆殺事件、2・26 事件、終戦時の描写）
- 縁の下の力持ち：遅れた政界進出と長い秘書官時代
- 尊皇家でありつつ進歩的であること：革新的な保守
- 反対党としての魅力：改進黨幹事長として・岸信介への挑戦
- 誰もやらないならば自分がやる：対米協調外交の中での中国問題
- 歴史に裏付けられた政治観・政治家観：歴史への強い関心

■松村を支えた福光・富山・北陸人脈と早稲田人脈

□教師：山本宗平など

□家族・親族：松村家と改進黨（明治）とのつながり。谷村一太郎という後見人。

□学者：得能文（南弘）・関与三郎・安部磯雄・青柳篤恒など

□建設：宮長平作など

□選挙区：根尾宗四郎、高広次平、北六一郎、島莊次、砂土居次郎平、桜井宗一郎、
武部毅吉など

■政治家・官僚の人脈

□政治家：大隈重信・高田早苗・安部磯雄・永井柳太郎・中野正剛・浜口雄幸
・町田忠治・後藤文夫・大橋八郎・桜井兵五郎・三木武吉など

□農政官僚：松村真一郎・石黒忠篤・荷見安・小平権一・笹山茂太郎・重政誠之
・井野碩哉・周東英雄・竹山祐太郎・三浦一雄・和田博雄など

□厚生官僚：青柳一郎・河合良成（政務次官）・

■おわりに：松村の歩みが語りかけること

□混迷の時代の「導きの糸」

□意外と近い「近代」・「戦前」・「戦時」

□失われた可能性を掘り返すこと

<松村の研究>

- ・木村時夫『松村謙三』伝記編上下・資料編（櫻田会、1999年）
- ・遠藤和子『松村謙三』（KNB興産、昭和50年）
- ・安藤俊裕『政客列伝 松村謙三』（日本経済新聞 Web版に連載）

※筆者記述のまま掲載

●記念企画展示品目録

(1) 松村謙三の持ち物

- ①張作霖爆殺事件時に携行した旅行鞆 1928 (参考 p. 9, 18, 19)
- ②松村先生佩風のシルクハット (参考 p. 9, 20)
- ③勲章(従二位勲一等旭日桐花大綬章) 1971 (参考 p. 10, 21)

(2) 各種書簡

- ①重光葵短冊 1945 (参考 p. 10, 22, 23, 24)
- ②重光葵氏書簡 1946 (参考 p. 10, 25, 26)
- ③重光葵氏から松村謙三宛書簡 1952 (参考 p. 11, 27, 28)
- ④重光葵氏から松村謙三宛書簡 1953 (参考 p. 11, 29, 30, 31)

- ⑤吉田茂首相から松村謙三宛書簡 1948 (参考 p. 11, 32, 33)
- ⑥吉田茂首相から松村謙三宛書簡 1955 (参考 p. 12, 34, 35)
- ⑦松村謙三から吉田茂首相宛書簡 不明 (参考 p. 12, 36, 37)

- ⑧松村謙三から正力松太郎氏宛書簡 1923 (参考 p. 12, 38, 39)
- ⑨秋の叙勲における松村謙三・正力松太郎・大橋八郎の3氏 1964 (参考 p. 13, 40)

- ⑩町田忠治氏への書簡 1946 (参考 p. 13, 41, 42, 43, 44)
- ⑪松村謙三から中野長作氏への書簡 1950 (参考 p. 13, 16, 17, 45, 46)
- ⑫松村謙三から村田豊二氏宛書簡 1952 (参考 p. 14, 47, 48)

(3) 肖像画・その他

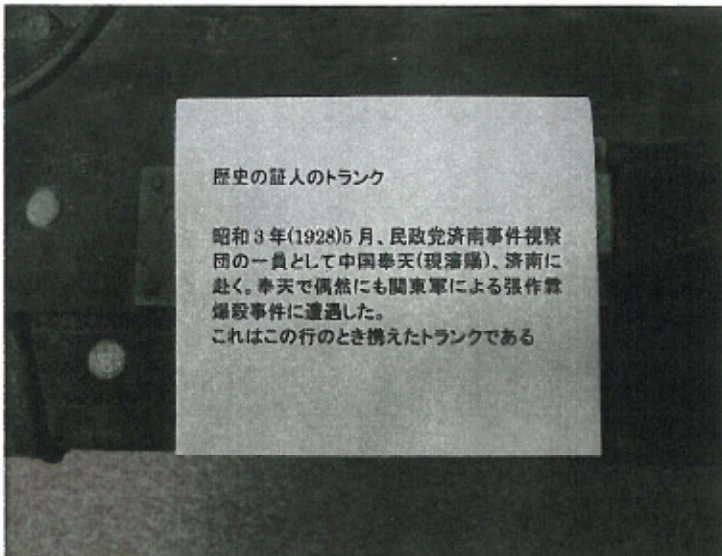
- ①正三位勲一等町田公墓誌 松村謙三書 1947 (参考 p. 14, 49)
- ②松村謙三 色紙(近藤日出造画) 不明 (参考 p. 14, 50)
- ③松村謙三 油彩画(石井鶴三画 衆議院議員永年勤続表彰記念) 1959 (参考 p. 15, 51)
- ④先憂後楽 1943 (参考 p. 15, 52)
- ⑤松村松宇還曆祝い祝賀貼り混ぜ屏風 1902 (参考 p. 15, 16, 53, 54, 55)
- ⑥坂田秀男氏より寄贈された木彫額 1971 (参考 p. 16, 56)

- ※ 松村謙三先生の略年譜 (参考 p. 57, 58, 59, 60, 61)

松村謙三記念事業 展示品写真 (H27.8.21)



(1)①



(1)①-2



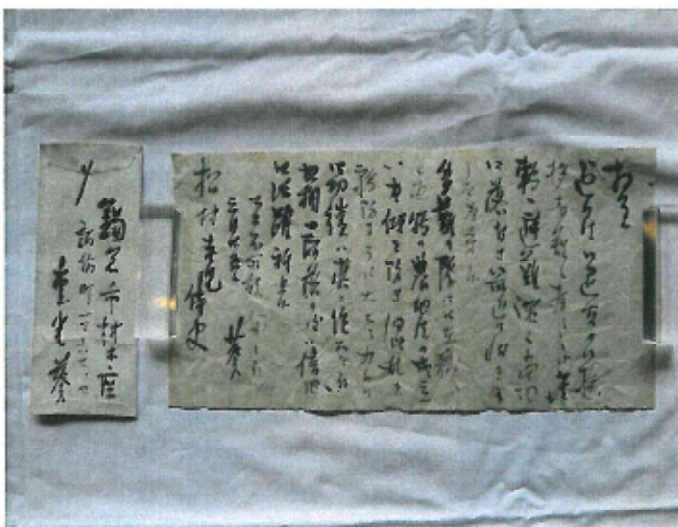
(1)②



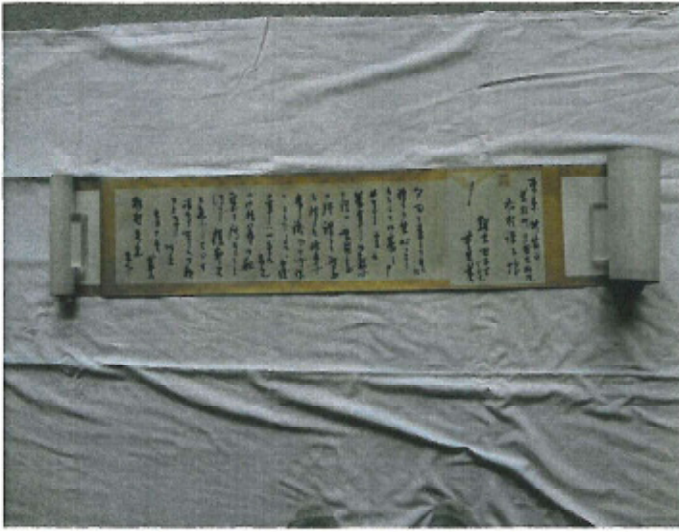
(1)③



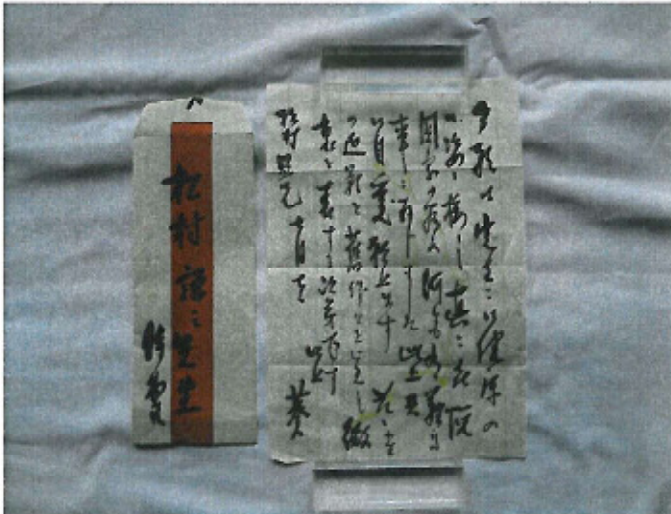
(2)①



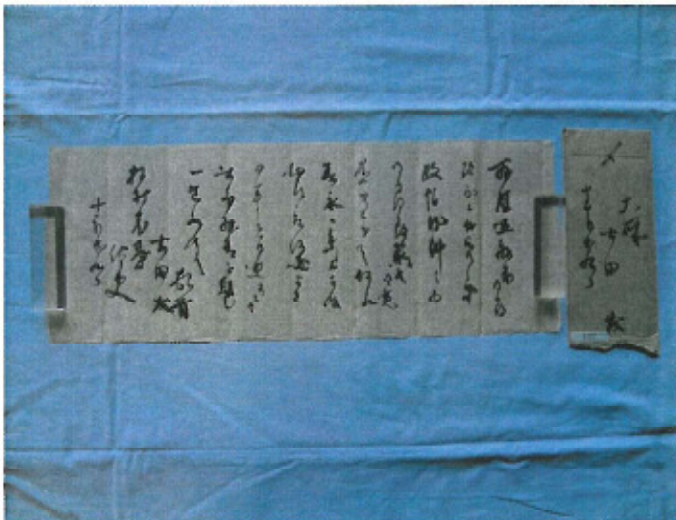
(2)②



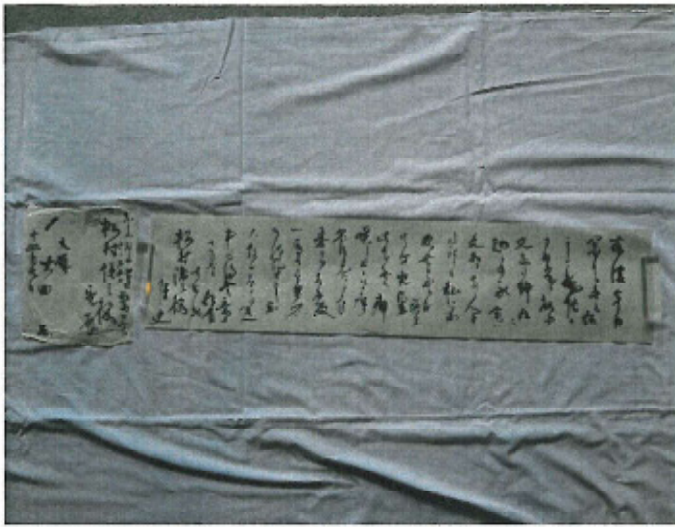
(2)③



(2)④



(2)⑤



(2)⑥



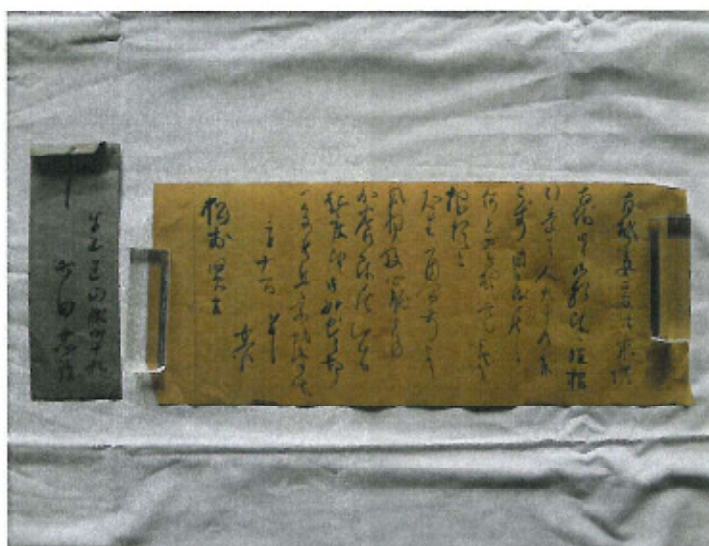
(2)⑦



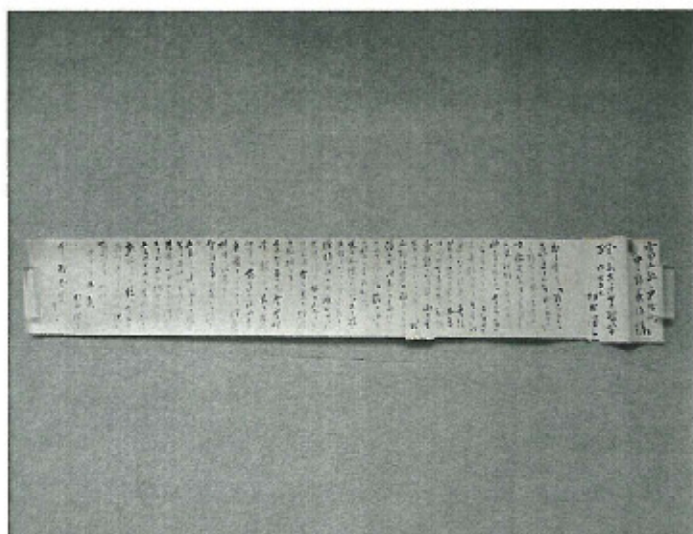
(2)⑧



(2)⑨



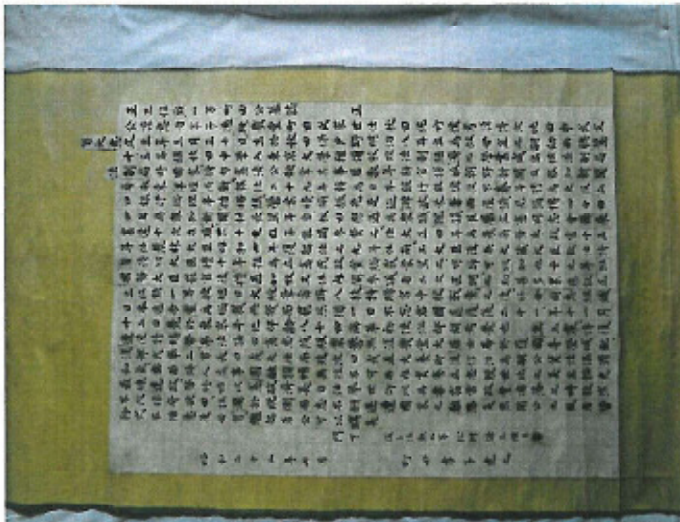
(2)⑩



(2)⑪



(2)⑫



(3)①



(3)②



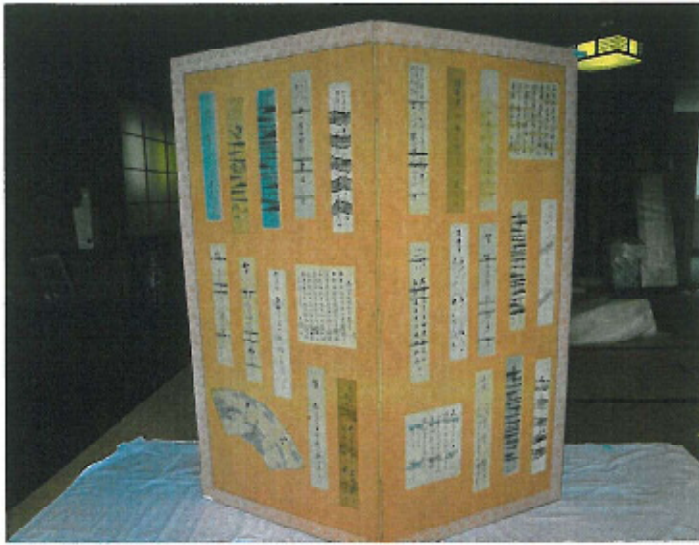
(3)③



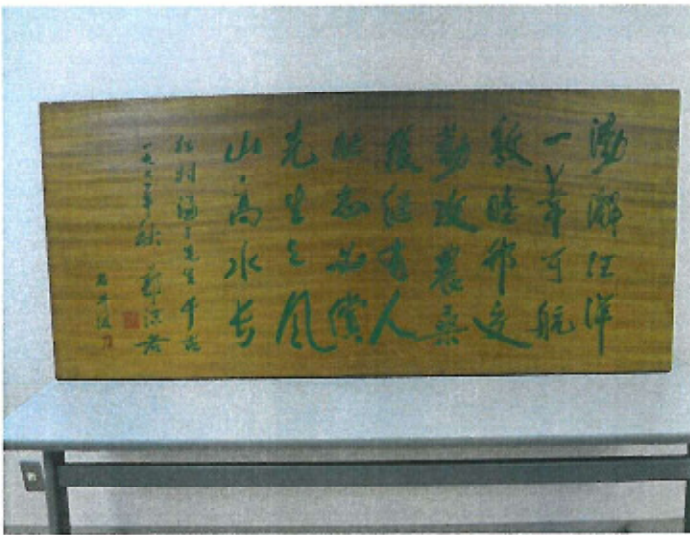
(3)④



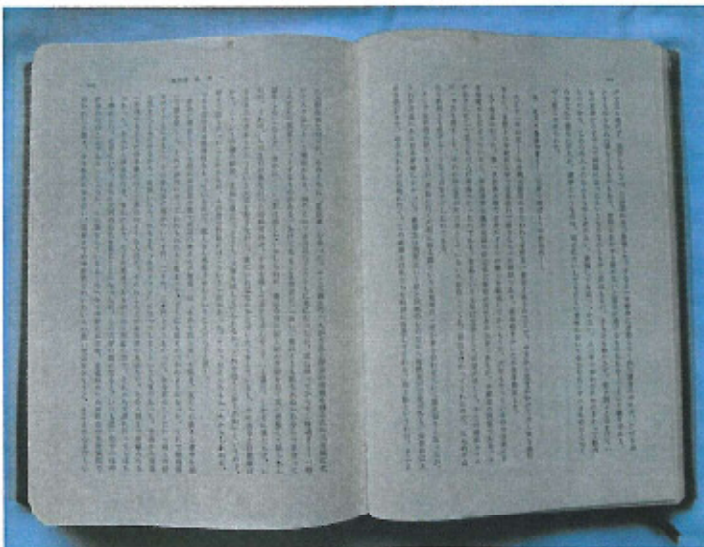
(3)⑤-1



(3)⑤-2

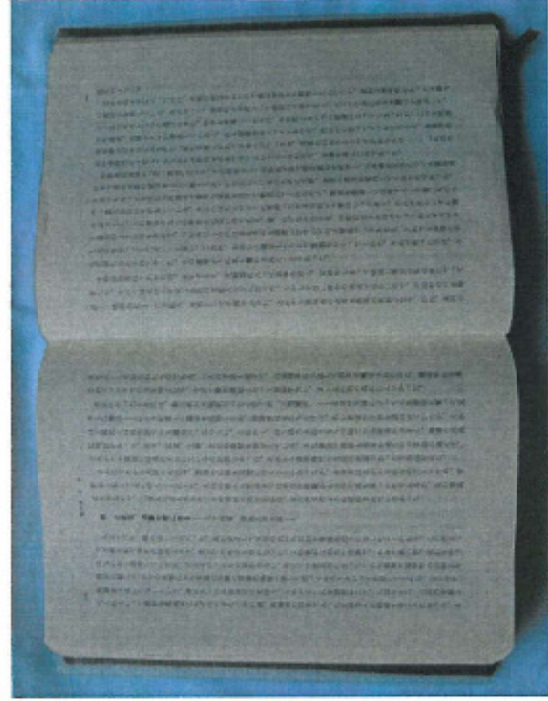


(3)⑥



三代回顧録
中野書簡部分
P.102~103

三代回藏録
中野書簡部分
P.103~104



町田忠治



(1)①張作霖爆殺事件時に携行した旅行鞆

1928年(昭和3年)6月29日、奉天付近で「張作霖爆殺事件」が起きた。民政党済南事件調査団の一員として訪中していた松村謙三は、済南事件の調査を終えて長春に向かおうとしたところ、偶然事件に遭遇した。その時携行した旅行鞆である。

張作霖が乗る特別列車が爆破され、張は死亡した。当時の田中義一内閣と満鉄側は張を利用し満州権益の拡大を図ろうとしていたのに対して、関東軍は張を外したうえ別の勢力による傀儡を立て、満州における独自の勢力圏の確保をもくろんでいた。

事件は関東軍河本大佐の仕掛けたものであると、民政党調査団は確証を得たうえで帰国後、民政党の浜口雄幸総裁に報告した。

事件後に真相の暴露を巡って議会在混乱し、事件へのあいまいな処断と併せて、倒閣に及ぶ事態に発展した。以降、軍や政府を巻き込んで日本を大きく変える契機となった。

爆破現場



山形中央図書館所蔵

張作霖



画報近代百年史 第十二集 1927-30

(1)②松村先生佩用のシルクハット

昭和の即位御大典のとき当時の日本海軍の全精鋭を集めた大観艦式が神戸沖で挙行された。昭和天皇も臨幸になるので陪観の議員も盛装しなければならない。

「私の頭に合うシルクハットはどこをさがしまわっても見当たらない。やむをえず小さいけれど普通のものを持って行ったが、陛下の

奉迎のときに軍艦の甲板に整列してそれを頭の上ののせていると

さっと吹いてきた海風がシルクハットを飛ばしてしまった。

それが

舷側に落ちてひっくり返ったまま波に浮いているのだ。このときほど冷汗をかいたことはない。大観艦式の艦艇の中に私のシルクハットが無心に参加しているのである。

(三代回顧録)

(1)③従二位勲一等旭日桐花大綬章

松村謙三（1883～1971）が逝去（昭和46年8月21日）された直後（昭和46年8月24日に追贈されたもの）。

(2)①重光葵氏短冊

(1945 年)

1945 年(昭和 20 年)9 月 2 日、東京湾上米戦艦ミズリー号艦上で日本側全権外務大臣重光葵(1887-1957)が政府代表として、大本営参謀総長梅津美治郎(1882-1949)が軍代表として、降伏文書に調印した。重光葵が降伏文書調印に向かう時の気持ちを詠んだもの。

それは、敗戦国になっても、日本が今後繁栄して降伏調印に署名した私(重光)の名前が多くの人に蔑まれるように願っている。というもの。

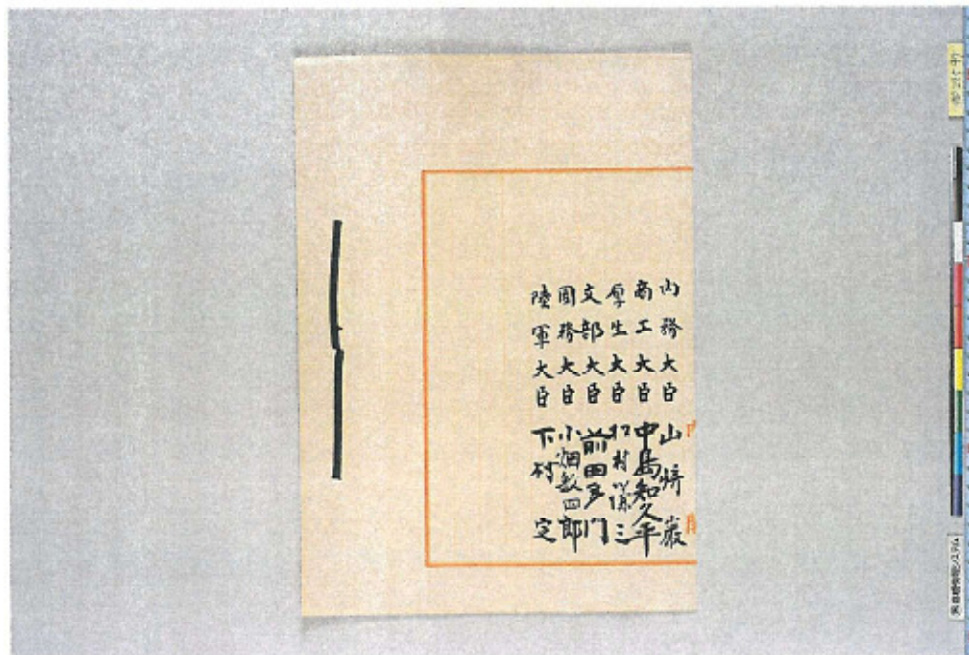
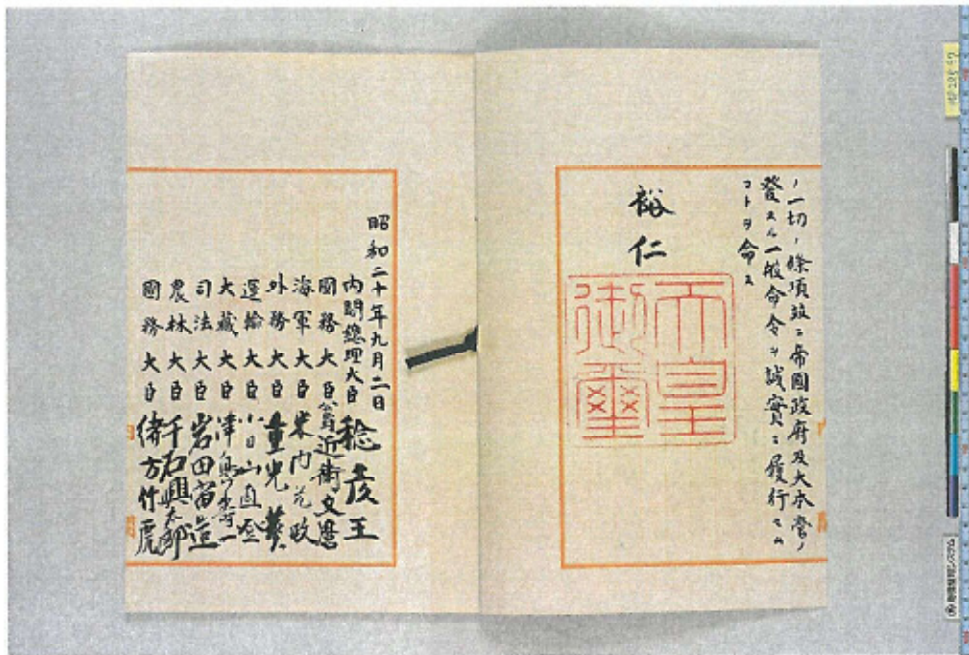
降伏文書調印に先立つ、「降伏文書調印に関わる詔書」には、外務大臣重光葵と厚生大臣松村謙三の署名が見える。

ミズリー号上での日本側全権



毎日新聞

降伏文書調印に関する詔書



国立国会図書館

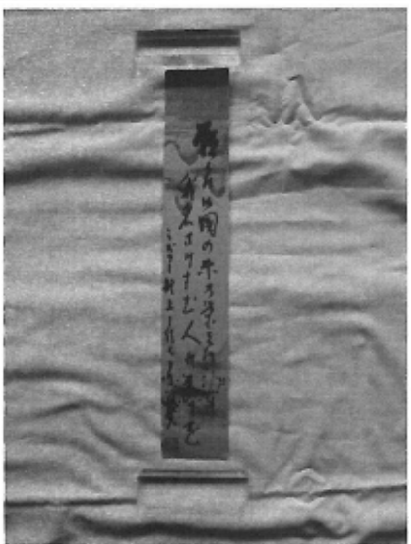
(2)①

願くば御国の末の栄え行き

我名さげすむ人の多きを

ミズリー艦上に行くとき

葵



(2)①重光葵氏短冊
(1945年)

1945年(昭和20年)9月2日、東京湾上米戦艦ミズリー号艦上で日本側全権外務大臣重光葵(1887-1957)が政府代表として、大本営参謀総長梅津美治郎(1882-1949)が軍代表として、降伏文書に調印した。重光葵が降伏文書調印に向かう時の気持ちを詠んだもの。

それは、敗戦国になっても、日本が今後繁栄して降伏調印に署名した私(重光)の名前が多くの人に蔑まれるように願っている。というもの。

降伏文書調印に先立つ、「降伏文書調印に関わる詔書」には、外務大臣重光葵と厚生大臣松村謙三の署名が見える。



国立国会図書館

(2)②重光葵氏書簡

(1946年3月25日)

重光葵(1887～1957)は松村謙三から農林大臣退官の挨拶(在任期間1945年10月9日～1946年1月13日)を受け取ったことへの返信。在職中の農地法の成立について我が国の治安維持にもつながる大きな功績であるなどを記した内容。

(2)②
拝呈

過日は御退官の御挨拶有難く拝し候。小生も轉々避難漸く当地に落付き最近、御状を拝した次第第二候。

多難な際に御在職被遊特ニ農地法の成立ハ左傾を防ぎ混乱を予防するに大なる力あり御功績は真ニ偉大と存世相一段落の後ハ倍旧御活躍祈上候。

以上不取敢 勿々不一

三月廿五日

葵

松村老兄

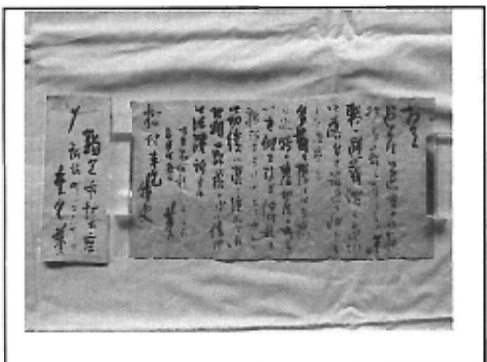
侍史

(差出人)

鎌倉市材木座

諏訪町一〇六七ノ四

重光 葵



(2)②重光葵氏書簡

(1946年3月25日)

重光葵(1887~1957)は松村謙三から農林大臣退官の挨拶(在任期間 1945年10月9日~1946年1月13日)を受け取ったことへの返信。在職中の農地法の成立について我が国の治安維持にもつながる大きな功績であるなどを記した内容。

(2)③重光葵氏から松村謙三宛書簡

(1952年3月15日)

重光葵(1887～1957)宛に3月13日に出された書簡。2月8日に改進黨が結成された。松村謙三が中心となって結黨に尽力した。その後6月13日には重光葵は改進黨総裁となる。

松村らによって1952年結成された改進黨の党首として、松村がかねて人物を高く評価していた重光の推載を画策して、胆のう炎治療のため入院していた病院を抜け出して鎌倉に重光を訪問した。

「いくらことばを尽し熱心に説いても、重光氏はうんと言わないのでよく考えておいてくれと、私は辞去したが、間もなく病院に親書を寄せられ万事おまかせする—という承諾の意思がとどけられた。」

(三代回顧録)

(2)③

今回の事に付ては種々御苦心のありたること御察し申上ます。小生も萬事御教示に従い無用意の儘、裸にて発起を致した次第で常識では無謀のことでした。今後の事ハ一重に老兄のご指導御配慮に待たざるを得ず綾部君を通じてでも諸事宜しく御頼申上ます。

以上

三月十五日

葵

松村 老兄

台下

(あて先)

東京新宿区

若松町第一国立病院

松村謙三様

(差出人)

鎌倉材木座一〇六七

重光 葵

**(2)③重光葵氏から松村謙三宛書簡
(1952年3月15日)**

重光葵(1887~1957)宛に3月13日に出された書簡。2月8日に改進黨が結成された。松村謙三が中心となって結党に尽力した。その後6月13日には重光葵は改進黨総裁となる。

松村らによって1952年結成された改進黨の党首として、松村がかねて人物を高く評価していた重光の推載を画策して、胆のう炎治療のため入院していた病院を抜け出して鎌倉に重光を訪問した。

「いくらことばを尽し熱心に説いても、重光氏はうんと言わないのでよく考えておいてくれと、私は辞去したが、間もなく病院に親書を寄せられ万事おまかせする—という承諾の意思がとどけられた。」

(三代回顧録)



(2)④重光葵氏から松村謙三宛書簡

(1953年7月7日・推定)

重光葵(1887～1957)から松村謙三先生宛書簡。

重光葵の近影写真と著作(『昭和の動乱』展示品)を贈呈した内容。重光葵は1952年(昭和27年)6月に改進黨総裁となり、1953年(昭和28年)衆議院議員選挙でも2期目の当選を果たしている。

(2)④

今朝は先生の御健康の
御姿ニ接し真ニ喜悅
国家の為め何とも有難き
事ニ存じました。此上共
御自愛願上ます。茲ニ小生
の近影と旧作とを呈し微
衷を表する次第です。

七月七日

以上

松村賢兄

葵

(宛先)

松村謙三先生

侍曹



(2)④重光葵氏から松村謙三宛書簡
(1953年7月7日・推定)

重光葵(1887~1957)から松村謙三先生宛書簡。
重光葵の近影写真と著作(『昭和の動乱』展示品)を
贈呈した内容。重光葵は1952年(昭和27年)6月
に改進黨総裁となり、1953年(昭和28年)衆議院
議員選挙でも2期目の当選を果たしている。

重光^{しげみつ}葵^{まゐる} 松村が政界にスカウトした大物外交官

重光葵（1887～1957）、大分県三重町漢学者の家に生まれる。五高、東京帝大を卒業後、外交官となる。

重光葵は戦前には駐ソ大使、駐英大使、戦時中の東条内閣、小磯内閣で外務大臣をつとめた大物外交官。

終戦時の東久邇宮内閣の外務大臣として戦艦ミズーリ号艦上で降伏文書に調印したことでも有名。